

# 南海地震時 初動迅速に

## 高知市 医療センターと県大訓練

南海トラフ地震発生時の  
初動対応を確認する合同災  
害訓練がこのほど、高知市  
池の高知医療センターと高

知県立大学で行われた。医  
師や看護師、職員、学生ら  
約350人が治療の優先順位を  
決めるトリアージなどに取

り組んだ。  
訓練は2012年以降、  
毎年実施。今回は「平日の  
午前8時半に震度7の大地



トリアージを行った患者役の学生を搬送する医療スタッフら  
(高知市池の高知医療センター)

震が発生」との想定で19日  
に行われた。  
「足がつぶれた」先生、  
はようして。同センター玄  
関前に集まった傷病者役の  
学生16人に、医師や看護師  
らが「名前、言える？」な

どと問いかけ、緊急度を把  
握。集中治療室や廊下に設  
置した簡易ベッドへと搬送  
先を振り分け、軽傷者や帰  
宅困難者を県立大に設けた  
避難所に誘導した。  
訓練後の話し合いで「指

揮系統をはっきりさせるべ  
きた」情報収集が難しく、  
初動に時間を要した」など  
の反省点が続々。両親が阪  
神大震災に遭ったという県  
立大看護学部2年の佐藤大  
耀さん(20)「神戸市出身」

は「トリアージの待機患者  
が多かった。現場でないと  
分からない課題も多く、  
学びの場になる」と話し  
た。  
現場を指揮した同センタ  
ーの斎坂雄一・救命救急セ

ンター長(52)は「アクション  
カード(行動指標カード)  
を周知できていなかった。  
日頃から活用回数を重ね、  
迅速な初動につなげたい」  
と指摘していた。  
(横田幸成)